



TITLE:

メタファース的思考と批判的思考：レトリックと認知心理学の観点から

AUTHOR(S):

楠見, 孝

CITATION:

楠見, 孝. メタファース的思考と批判的思考：レトリックと認知心理学の観点から. 日本認知言語学会論文集 2011, 11: 551-558

ISSUE DATE:

2011-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/173168>

RIGHT:

© 日本認知言語学会; この論文は出版社版ではありません。引用の際には出版社版をご確認ご利用ください。; This is not the published version. Please cite only the published version.

メタファー的思考と批判的思考：レトリックと認知心理学の観点から

楠見 孝（京都大学）

1 はじめに

本稿では、主に認知心理学の観点から、レトリック研究の現状と課題を、研究と教育の両面から考察する。

レトリックは古代ギリシャのアリストテレスによれば「人を説得するスキル」として捉えることができる。それは、大衆を説得する弁論術（レトリケー）と学問的に論証する弁証術（ディアレクティケー）に大別できる。また、説得の方法を、ロゴス（論理）、エートス（語り手の人格）、パトス（聞き手の感情喚起）の3つに分けている。さらに、ローマ共和制末期のキケロの頃には、レトリックを5部門（発想、配置、修辞、記憶、発表）に大別されるようになった（波多野，1973）。このレトリックの5部門は、認知心理学の起源ともいえるテーマ、すなわち人の発想から発表までの認知プロセスに関する考察ともいえる。

レトリックの研究 認知心理学におけるレトリックに関する研究の特徴は、海外では、心理学者Ortony(1979)の“*Metaphor & Thought*”以降、メタファー、アナロジーなどの、メタファー的思考の認知プロセスと効果、それを支える知識の構造を、人を対象とした実験や調査によって解明してきた。とくに、近年は、認知言語学、身体化理論や社会認知神経科学、大規模データベースなどの理論・手法の影響を受けて展開している。関心の中心は、修辞に関するメタファーやアナロジー、アイロニーといった個別の現象であった。しかし、論理、コミュニケーションと説得などの研究は、レトリックの体系としてではなく、思考研究や説得研究として個別に研究されてきた。

一方、国内におけるレトリックの認知的研究としては、心理学者の波多野完治は『文章心理学』（1935）から展開した『現代レトリック』（1973）において、古代ギリシャのレトリックから1970年代の欧米のレトリック研究を心理学的に考察している。一方、記号論学者佐藤信夫による『レトリック感覚』（1978）、『レトリック認識』（1981）などの一連の著作は、隠喩、直喩、提喩、換喩などの多様な文彩の持つ認知的機能に着目したものである。さらに『レトリックの宇宙』（1986）、『メタファー的思考』（1995）では、隠喩・提喩・換喩からなる認識の三角形を提唱している。また、菅野盾樹『メタファーの記号論』（1985）、『新修辞学』（2003）は、古代から1970年代以降の認知革命を踏まえて、レトリックと認識を体系的に記述したものである。

レトリックの教育 大学教養教育において、「レトリック」という名のもとでの教育は、米国に比べて日本では盛んとはいえない。しかし、大学生が卒業時に身につけるべきジェネリック（汎用的）なスキルとして、ライティングやプレゼンテーションなどのコミュニケーション能力を支える批判的思考力(critical thinking)に関わるスキルの重要性が指摘されるようになってきた（たとえば、鈴木・大井・竹前，2006）。ここでの批判的思考力は、批判的な読解や理解を経て、証拠に基づいて主張（書く・話す）することが重視されており、レトリックに関わる論理と誤謬、コミュニケーションと説得といった諸研究が基盤になっている（楠見，2010）。これらは、人を説得するスキルの理論体系であるレトリックの教育と考えることができる。これは、イソクラテスのレトリケーを中心とした教養教育、とくに思慮を伴う言論の教育としてとらえ直すことができる。

ここでは、レトリック研究の現状と課題を認知心理学的に捉える手がかりとして、図1のようなロゴスに基づく批判的思考と類似性やプロトタイプに基づくメタファー的思考に焦点を当て、それぞれの特徴と相互関係を考察し、レトリック研究と教育実践における位置づけを行いたい。

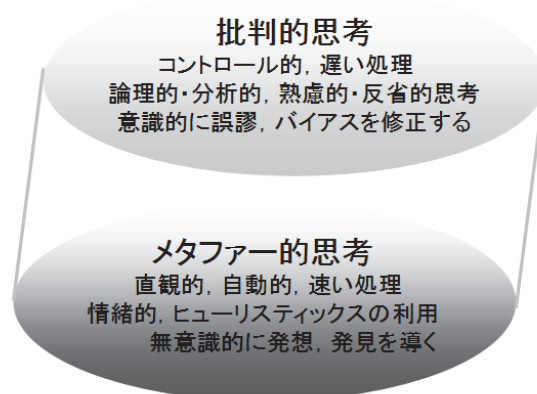


図1 批判的思考とメタファー的思考(楠見,2010を改変)

2 メタファー的思考

2.1 メタファー的思考の種類

人は、メタファー的思考をおこなうことによって、創造的かつ効率的なコミュニケーションをおこなうことができる。ここでは、メタファー的思考について考えるために、メタファー的思考を言語で表現したものである主な3種の比喩（隠喩・直喩、提喩、換喩）に分けて考えていく。そして、図2のように3種の比喩を3つの意味関係（類似性、隣接性、上位-下位関係）に対応づけて考える(瀬戸, 1986)。

(1)類似関係に基づくメタファー的思考：直喩・隠喩 直喩や隠喩は、2つの対象(概念、スキーマ、事例、問題、理論、物語など)を類似性に基づいて結びつけるメタファー的思考に支えられている。直喩や隠喩を支える思考は、2つの異なる対象を比較しながら、既知の対象を別の既知の対象との類似性を発見したり、未知の対象を既知の対象に基づいて理解・伝達したりする知識獲得を支える働きをもつ。人の認知は、類似性を迅速に、柔軟に発見するメカニズムがある。これは、未知の情報を既知の知識に基づいて解釈することを助ける。たとえば、戦争や国際関係などの複雑な状況を説明する時には、メタファーを体系的に用いることによって、読み手が直観的に理解できるようにし、読み手を誘導することもある。こうした視点から Lakoff(1991, 2008)は湾岸戦争のメタファーの分析を行なっている。

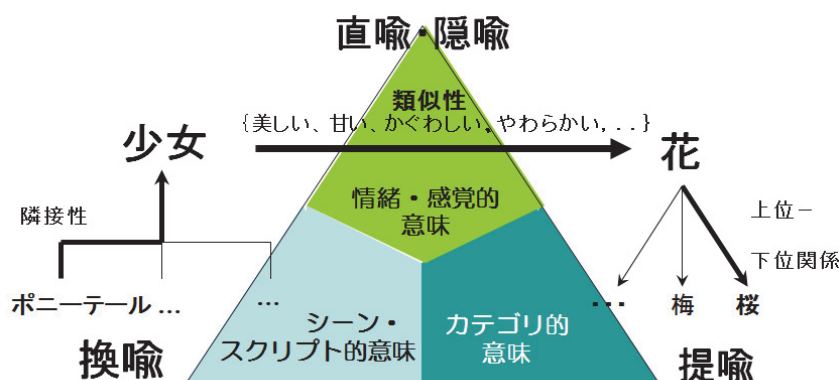


図2 メタファー的思考を支える3種の比喩(楠見, 2007b)
(瀬戸(1986)の認識の三角形を改変)

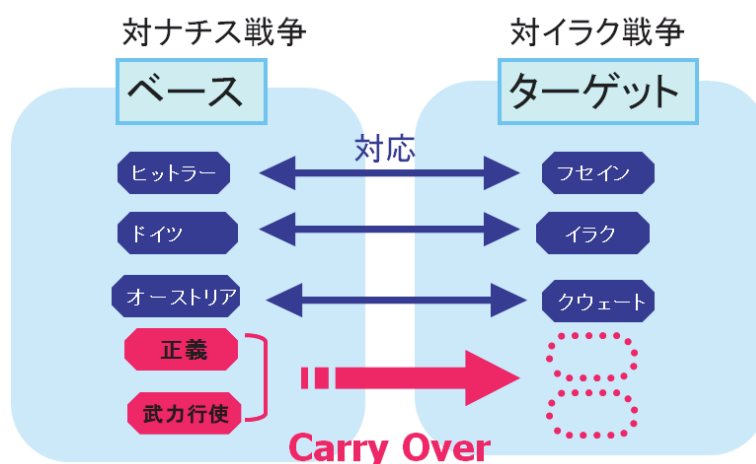


図3 湾岸戦争のメタファー的思考における対応づけ

(1) 対イラク戦争は対ナチス戦争だ

(1) の隠喩は、図3のように、対ナチス戦から対イラク戦争に、悪者としての[ヒトラー→フセイン]と[旧ドイツ→イラク]、犠牲者としての[オーストリア→クウェート]が対応づけられることによって、対ナチス戦争の{正義, 救援, …}といった特徴が対イラク戦争に carry over される。その結果、「正当な戦争」の部分が強調され、他の部分は隠蔽される。メタファーはコミュニケーションの効率上、わかりやすいという点で利点がある。しかし、2つの対象が本当に対応しているのか、部分的対応を全体の対応に拡張するよう carry over してよいのか、メタファーによって強調される面と隠蔽される面は何か、別のメタファーがあるのでは(たとえば、「湾岸戦争はベトナム戦争だ」は別の特徴が強調される)といった検討が必要である。

(2) 隣接関係に基づくメタファー的思考: 換喩 換喩(metonymy)は隣接関係に基づく思考に支えられた比喩表現である。換喩は、ある対象を指示するために、それと隣接する対象を用いて表現する。換喩が依拠するおもな隣接関係には以下のものがある。(a) 顕著な対象で空間的隣接対象を指す: たとえば、部分で全体(「赤ずきん」で、それをかぶった「女の子」)(図4)。(b) 顕著な事象で時間的隣接事象を指す: たとえば、原因で結果(「ペンをとる」で「手紙を書く」)。こうした換喩の理解や生成には、文脈情報と知識(場面やその時間的連続であるスクリプト)における、認知的に顕著な特徴や対象を利用して時間的空間的に隣接した対象を置き換えるという思考プロセスが働いている。

たとえば、図4に示すように、日の丸や君が代に対する否定的なイメージは、それが使われた戦中の日本の国家体制や日本軍と隣接関係に基づく換喩的な思考プロセスによって説明できる。すなわち、日の丸や君が代は、戦中の日の丸を立てて進軍した日本軍や国家体制を代表する顕著な一部として捉えることによって、否定的なイメージが生じると考えられる(楠見, 1990)。

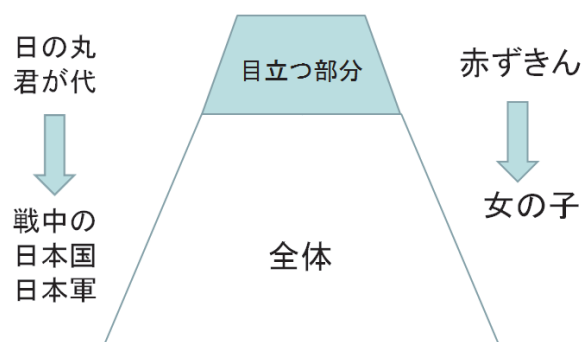


図4 隣接関係に基づく換喩的なメタファー的思考の例(楠見, 1990 を改変)

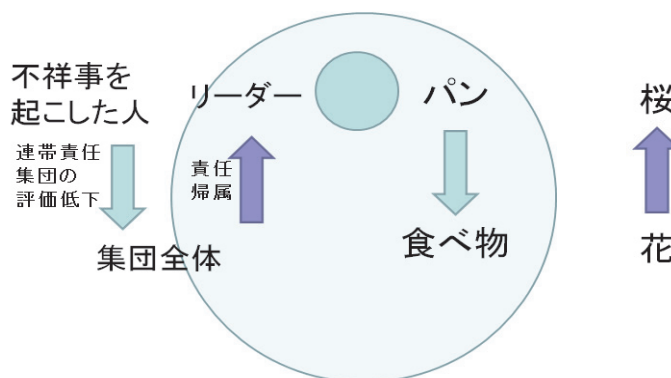


図5 上位-下位関係に基づく提喩的なメタファー的思考の例 (楠見, 1990 を改変)

(3) 上位-下位関係に基づくメタファー的思考：提喩 提喩 (synecdoche) はカテゴリの階層関係に基づく思考に支えられた比喩表現である。大きく分けると2つの種類がある。第1は、典型的な事例でカテゴリ全体を指す (例：「人はパンのみにて生きるにあらず」においては「パン」は「食べ物」や「物質的満足」を指す) 表現、第2は、カテゴリで典型的な事例を指す (「花」で「桜」を指す) 表現である (図5)。いずれも人のもつカテゴリに関する知識の包含関係において、典型的な事例を利用して対象を置き換えるというプロセスが働いている。

たとえば、図5に示すように、ある集団のメンバーの一員が不祥事を起こしたときに、その集団全体が責任をとったり、集団全体の評価を下げたりするのは、一人の不祥事の責任や否定的評価を全体に拡散させる提喩的なメタファー的思考推論である (例：野球部員の不祥事による甲子園出場辞退や学校の評判低下)。これは少数事例に基づいて人種などの集団のステレオタイプを形成する仕組みと共通する。さらに、ある人の不祥事によって集団全体の拡散した評判低下に対して、責任をリーダーがとるのは、リーダーが目立ちやすく、世間の人にとってわかりやすいためである (楠見, 1990)。

2.2 メタファー的思考の働きと評価

第1に、メタファー的思考によるコミュニケーション機能は、隠喩やアナロジーでは、相手の既有知識に基づくたとえを用いることで、理解しやすい記述や説明ができることである。第2に、的確なメタファー的表現や慣用表現は、字義通りの表現に比べると簡潔な表現や、認知的な節約を可能にする。第3に、メタファー的思考には、体系的な説明や予測を生み出すパワーや、新たなものや美的なものを生み出す面白さがある (楠見, 2007a)。

しかし、メタファー的思考は、無意識的・自発的に利用されやすく、日常言語、概念、思考、理論に浸透しているため、間違った理解や過剰な一般化を導く危険もある。したがって、メタファーの解釈や利用にともなうリスクを考慮する必要がある。

3 批判的思考

3.1 批判的思考の働き

メタファー的思考は、一部の類似性にもとづいて、他の類似性を過剰に類推してしまうバイアスや、目立ちやすい部分に基づいて全体を判断する利用可能性ヒューリスティックによる判断のバイアスが起る場合もある (楠見, 1990)。人の思考は、メタファー的思考に代表される直観的思考が先行し、つぎに規則に従う批判的で熟慮的な思考がバイアスのない推論を導く。3では、どのようにすれば、バイアスのない、規準 (criteria) にしたがう、論理的な思考ができるのかを検討する。ここで取り上げる批判的思考とは、自分の推論過程を意識的に吟味する反省的 (reflective) な思考である。それは、人の話を聞いたり、文章を読んだり、テレビを見たりする時に、何を信じるのかという判断や、自分がどのように考え、行動するのかという判断を支えている。したがって、批判的思考は、言語を通しての理解、思考、表現といった実践的コミュニケーション能力やメディア・リテラシー能力を支えているといえる (楠見, 2010)。

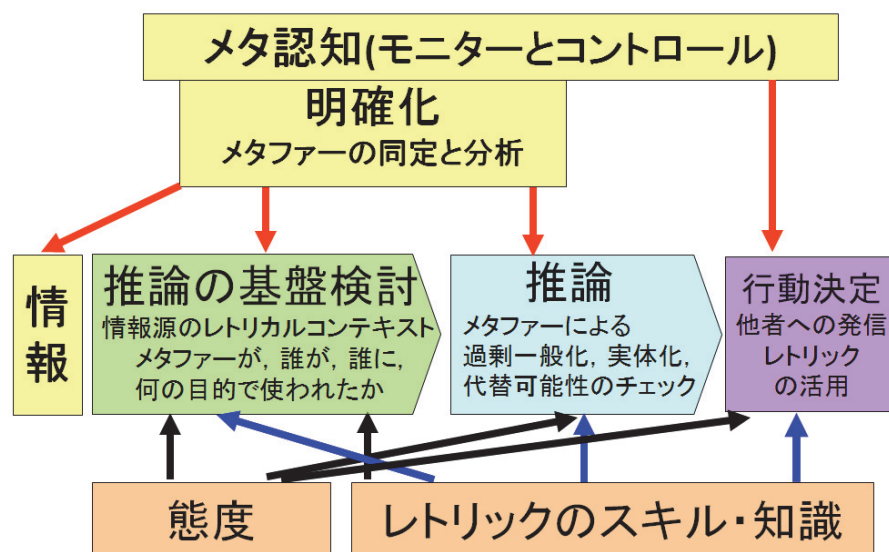


図6 批判的思考のプロセスにおけるメタファー的思考のチェック

3.2 批判的思考の認知プロセス

批判的思考を支える認知プロセスは、図6のように示すことができる。ここでは、その中核にあたる3つのプロセスを、メタファー的思考のチェックという観点から論じる。

(a) **明確化** 批判的思考では、推論の基盤となる情報に対して、明確化をすることが必要である。具体的には、隠れた前提を同定すること、論証(構造、結論、理由など)を分析することと、曖昧な語句(メタファーやアナロジー、多義語など)を同定し、解釈や定義を行なうことがある。ここでは、メタファーの読解に関して説明すると、なぜそのメタファーを用いた/用いるのか、背後にどのような前提が隠されているのか、それはどのような効果を持っているのかを評価規準として判断することである。一方で、情報を発信する側は、誤解を生む不適切な用語、メタファー、アナロジーを避けることも大切である。

たとえば、以下の戦争のメタファーを考えてみる。

- (2) War on drugs (麻薬撲滅)
- (3) War on poverty(貧困解消)
- (4) War on cancer (がん制圧)
- (5) War on terror (テロとの戦い)

これらは「戦い」(war)のメタファーによって、戦略を考え、ターゲットを撲滅し、人を救う力強いイメージが喚起される。しかし、(5)の War on terror(テロとの戦い)では、Lakoff(2008)が指摘するように、2001年9月11日のアメリカ同時多発テロをアメリカ政府が「対テロ戦争」と捉え、メディアを通して反復することによって、アメリカ国民の恐怖と一体感が高まり、イラクへの軍事攻撃が正当化され、厳しい搭乗検査への協力が当然のことになった。「対テロ戦争」には、国権の発動としての戦争という字義通りの意味が隠され、国民の命を守る力強いイメージに変換されていた。そして、こうした動きを批判的に考えることを難しくしていた。

(b) **推論の基盤の検討** レトリックではトポス(論拠)に対応する。推論を支える主な3つの情報源としては、他者の主張、観察結果、以前におこなった推論によって導出した結論がある。すなわち、情報源のレトリカルコンテキスト、情報の信頼性や情報内容を判断することである。たとえば、情報源のレトリカルコンテキストについては、誰が(専門家によるものか等の人のトポス)、誰に対して(研究者、市民、消費者など)、どんな目的で

(研究, 教育, 宣伝など), いつ, どこで (学会誌, 新聞, ホームページなど) 発表したのか, 異なる情報源の間で一致しているか (物のトポス), 科学的な確立した手続きをとっているか等の評価規準に基づいて検討が必要である。

たとえば, 「テロとの戦い」といったメタファーは, メディアに反復して出現するようになり, 無自覚に使われ, それを受容した市民は戦争を正当化する方向に誘導されるようになった。こうしたメタファーは, 誰が, いつ, 誰に対して, 何の目的 (たとえば, 背後にある政治的動機づけ) で使われるようになったのかを検討する必要がある。

(c) 推論 演繹・帰納の判断, 類似性や部分-全体関係などに基づく日常推論, 価値判断などを適切に行なうことが必要である。たとえば, メタファー的思考において類似性や部分情報に基づいて, 過剰に一般化していないか, メタファーやアナロジーを実体化していないか (たとえば現実を離れて一人歩きしていないか) は重要な評価規準である。

たとえば, 「テロとの戦い」といったメタファーは, 国民の一体感を高めるスローガンとしての比喩ではなく, 現実のイラクへの戦争として実体化されることになった。もし, 同時多発テロを, 「国際犯罪」と捉えていれば, 犯罪組織の摘発が目標になり, 他国の捜査機関と協力して, 犯人の電話履歴, 銀行の資金移動などを捜査することが中心になる (Lakoff, 2008)。こうした他のメタファーを使った場合には, 別の帰結があり得たのではないかを問い直すことも重要である。

批判的思考を実際に行う際には, (a) の明確化から (c) の推論を実行するプロセスと, それぞれのプロセスが適切に実行できているかをメタ認知的にモニターするプロセスとがある。さらに, こうした批判的思考に基づいて, 行動を決定し自分の主張を他者に伝えるためには, 相手を説得するためのレトリックのスキルが重要である。

3.3 批判的思考の教育

批判的思考力を身につけ, 適切な推論をおこなうことは, 学業や職業, 研究, 消費生活などにおいて必要である。とくに, メディア (健康, 科学, 経済) リテラシーといった生活に関わる情報を読み解く能力を支えている。また, 私たちが, 自らの陥りやすい自己中心的思考, 先入観, バイアス, 誤解に目を向けることは, よりよく生きるために重要である。そこで, 児童・生徒・学生そして市民の批判的思考の能力と態度を高めるための教育が重要になる。

これまでの学校教育では, 領域知識を教えることが中心であった。それに対して, 批判的思考力の教えることは, 学習者を良き思考者 (good thinker) や市民に育てることを目標とする (楠見, 2010)。批判的思考教育は, 3.2 で述べた批判的思考のスキルや知識を教えることによって, 批判的思考の能力を高め, あわせて態度を育成する。大学教育を例に挙げると, 導入教育では, 批判的思考を領域普遍的な学習・思考スキルとして教える。一方, 専門教育では, 領域特殊な専門分野での読解や問題解決を通して訓練する。そして, 専門教育で獲得したスキルが, 当該分野の問題解決だけでなく, 日常的問題や社会の問題解決にもメタファー的思考を用いた類推によって転移することを目指す。ここで, 批判的思考力を育成する教育活動には, 大きく分けて以下の4つの活動がある (楠見, 2007a)。とくにメタファー的思考の育成と関わらせて例示してみる。

第一は, (新聞記事などを用いた) 批判的読解や (ビデオなどを用いた) 批判的視聴である。ここには3.2 で述べたメタファーの解釈も含まれる。特に, 概念メタファーは無意識的に使われ気づきにくいために, それを発見し分析するためのスキルと知識が必要である。

第二は, 討論を通して, 批判的思考力に加えて, メタファーやアナロジーを用いたコミュニケーションスキル, 能動的傾聴 (active listening) スキルを育成する活動である。メタファーを用いた簡潔でインパクトのある表現をおこなったり, 相手の理解を助けるアナロジーを活用したりするスキルを獲得することが大切である。

第三は, レポートや論文作成を通して, 分析的思考と自己表現力, 創造性を育成する活動である。ここでは, 明確化から推論にいたる3つのプロセスに基づく批判的思考による分析と, メタファーやアナロジーを活用した発想や表現の両方の思考を活用することが大切である。

第四は, グループ活動において, プロジェクトを設定し, 共同作業を進める活動である。ここでは, メタファーやアナロジーに基づく発想と問題解決, コミュニケーションのスキルの育成を通して, より実践的な能力の獲得を目指すことが考えられる。

4 まとめ

メタファー的思考と批判的思考は相補的に働いている。メタファー的思考は、類似性を利用して、知識を拡張したり、変容させたりする思考であり、理論構築や、発明や発見を支える思考である。また、メタファー的思考の言語的表現である隠喩・直喩は類似性による対象の置き換え、換喩は近接性を利用した置き換え、提喩は典型例やカテゴリを利用した置き換えによって、認知的に節約された伝達をおこなうことを可能にしている。これらのことを考えると、こうしたメタファー的思考はヒューリスティックスと共通する認知過程に支えられており、発見法や節約的認知処理としては有用であるが、過剰な一般化や実体化の危険性がある。したがって、思考のプロセスやアウトプットを3で述べた批判的思考の評価規準を通してみるのが重要である。

人が、適切な判断や主張を行うためには、自他の推論や主張を評価規準に照らしてモニターする批判的思考が重要である。人が、批判的思考を働かせるためには、レトリックを代表とする領域普遍的スキルだけでなく、内容を理解し、判断するための知識が必要である。内容に関する知識は、多数の領域に分かれている。それは、人が、複数の類似あるいは近接した個別経験や情報を、言語による抽象化（帰納）に基づいてボトムアップ的に統合したり、抽象的な理論や規則によってトップダウン的に統一的に説明したりする際に領域知識ができるためである。こうして形成された領域知識を未知の領域に転用するためにメタファー的思考が働いている（楠見, 2007a）。

したがって、学校教育においては、メタファー的思考を育成するとともに、それを上手に使うための批判的思考を育成することが重要である。認知言語学や認知心理学を支える認知的アプローチは、レトリックを、人の認知のプロセスと構造に基づいて再び体系化することになると考える。その体系化は、実証的かつ学際的であり、学校教育にも貢献するものであると考える。

文献

- 波多野完治 (1935). 文章心理学：日本語の表現価値 三省堂
- 波多野完治 (1973). 現代レトリック 大日本図書
- 楠見 孝 (1990). 直観的推論のヒューリスティックスとしての比喩の機能：提喩・換喩に基づく社会的推論の分析. 記号学研究, 10, 197-208.
- 楠見 孝 (2007a). 批判的思考とメタファー的思考 稲垣佳世子ほか(編) 新訂認知過程研究：知識の獲得とその利用 放送大学教育振興会 Pp. 153-168
- 楠見 孝 (2007b). メタファーへの認知的アプローチ 楠見 孝(編) メタファー研究の最前線 ひつじ書房 pp. 525-544.
- 楠見 孝 (2010). 批判的思考と高次リテラシー 楠見 孝(編) 思考と言語 現代の認知心理学3 北大路書房 pp. 134-160.
- Lakoff, G. (1991). Metaphor and war: The Metaphors system used to justify War in the Gulf. *Vietnam Generation Journal Online*, 3 (3) (November 1991).
http://www2.iath.virginia.edu/sixties/HTML_docs/Texts/Scholarly/Lakoff_Gulf_Metaphor_1.html
(2011. 2. 22)
- Lakoff, G. (2008). *The political mind : A cognitive scientist's guide to your brain and its politics*. New York : Penguin Books
- Ortony, A. (Ed.) (1979). *Metaphor & Thought*. New York : Cambridge University Press
- 佐藤信夫 (1978). レトリック感覚 講談社
- 佐藤信夫 (1981). レトリック認識 講談社
- 瀬戸賢一 (1986). レトリックの宇宙 海鳴社
- 瀬戸賢一 (1995). メタファー思考 講談社
- 瀬戸賢一 (1997). 認識のレトリック 海鳴社
- 菅野盾樹 (1985). メタファーの記号論 勁草書房
- 菅野盾樹 (2003). 新修辞学：反哲学的考察 世織書房
- 鈴木健・大井恭子・竹前文夫 (編) (2006). クリティカルシンキングと教育：日本の教育を再構築する 世界思想社

<abstract>

Metaphorical thinking and critical thinking:
Perspectives from rhetoric and cognitive psychology

Takashi Kusumi

Kyoto University

Metaphorical thinking and critical thinking play complementary roles. Metaphorical thinking extends and changes knowledge using analogy, and then, supports theory building and invention. It also facilitates economical communication using metaphorical similarity, metonymical relationship based on contingency and synecdochical relationship based on typicality. Although metaphorical thinking is often useful for heuristics; it may also evoke overgeneralization and be misleading sometimes. For that reason, critical thinking is important for monitoring one's own or others' thinking processes and arguments based on heuristics. In order to think critically, individuals need both domain general skills (e.g., rhetoric) and domain specific knowledge, which is divided into many domains. The transfer of knowledge from one domain to another is done by using metaphorical thinking. The implications for the teaching of rhetoric in higher education are: (a) while metaphorical thinking facilitates learners' communication skills and creativity, (b) critical thinking monitors and guides the adequate thinking process as a generic skill. In conclusion, the cognitive approach organizes rhetoric as a cognitive process and as a function, which is practical, educational, and interdisciplinary.